



【第4回】休憩機能・情報発信機能を紹介します

今回は、道の駅の基本的な機能である休憩機能や情報発信機能について紹介します。

道の駅の休憩機能として、まずトイレが挙げられます。

混雑せずに利用できるよう、男子トイレには小14器・大7器、女子トイレには20器と、十分な台数を設置しています。また、子ども用トイレもそれぞれに1器ずつ設けてい

ます。このほか、女性トイレには有機EL照明付きのパウダールームを設置し、より自然に近い照明で身だしなみを整えることができます。無料休憩所や乳幼児用のオムツ替えコーナー（2台）、調乳コーナー、授乳室（2室）も設けており、長距離運転に備えた施設も準備しています。

情報発信機能については、観光総合案内での広域的な観光情報発信のほか、大型モニターやタッチパネル式のモニターにより、高速道路や国道、県道などの道路情報（通行止めや迂回、降雪情報等）を24時間得ることができ、安全で安心な道路利用を手助けしていきます。

「(仮称) 道の駅よねざわ」物産品説明会

来年春に開業予定の道の駅内で、物産品販売を希望する事業者向けに説明会を開催します。

■日時／9月6日(水)

14時～

■会場／置賜総合文化センター ホール

■内容／物産品販売の概要、販売要項、今後のスケジュール（商談会）などについて説明します。

■問合せ／

(株)アクセスよねざわ

☎ 40-8450



Eichi Nakamura
中村榮一 (1878 - 1942)



市立米沢図書館蔵

前回紹介した伊東忠太と親交があり、トルコで活躍した中村榮一を紹介します。

エピソード1 トルコの貿易会社で 支配人となる

中村榮一は明治11年、福田町に生まれました。榮一の若い頃の経歴はよく分かっていますが、明治38年にトルコの首都コンスタンティノープルに妻子を伴って渡航し、中村商店の2代目支配人となります。中村商店は、日本とオスマン帝国との間に貿易事業を展開するために設立された会社で、絹布を主力商品とし

て日本製品を取り扱っていました。また、榮一は中村商店での業務の傍ら、イスタンブール大学でトルコ語とトルコ法制を学んでいます。

トルコで活躍した日本人 貿易商として、日本と世界をつなぐ

中村商店にはトルコへの日本人訪問客が度々訪れ、その中には文部省から派遣されていた伊東忠太もいました。同郷であった榮一と忠太は親しくなったようで、2人が交流していた絵葉書も残されています。榮一は明治42年に勲四等オスマニエ章

を、明治44年には忠太と同じ勲三等メジディヤ章を受章するなど活躍しました。

エピソード2 貿易商として活躍するが 感染症で妻子を亡くす

一方で、当時流行していたチフスに罹り、自らは一命を取り留めたものの、チフスにより妻と長男を相次いで亡くすという悲劇もありました。その後、第一次世界大戦の影響により大正3年に中村商店は閉店、翌年に榮一も帰国します。

榮一は、忠太との縁で米沢有為会会員となり、榮一が忠太に宛てた書簡が明治41年5月の『米沢有為会雑誌』に収録され、トルコ情勢が伝えられました。また、昭和7年、米沢市郷土館の要請で、米沢出身の著名人の一人として色紙・写真・履歴書を提供しています。榮一の貿易商としての活躍は、郷土の米沢でも知られていたのです。